

About the Student's Understanding of the
Meaning of Lyrics (2) : About "Kimigayo"

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-03-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 笠井, かほる メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/213

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



学生の歌詞理解について（その2）

—「君が代」について—

笠井 かほる

はじめに

歌唱表現では、歌詞の内容を理解し、イメージをもって、言葉を美しく表現する必要があり、「歌詞」が重要な役割を担っている。言葉の理解により音楽的な表現も変わってくる。

保育者、教員になろうとする学生が歌詞をよく理解することでその曲のイメージができ、そこではじめて表現活動としての音楽が生き、子どもたちに伝えられるはずである。にもかかわらず、歌詞を間違えて覚えたり、歌詞の中のことばを理解せず、とんでもないイメージで歌っていることがよく見受けられる。その身近な例では「どんぐりころころどんぶりこ」を「どんぐりころころどんぐりこ」と意味を考えずに歌ったり、手遊びうた「アルプス一万尺、小槍の上でアルペン踊りを、さあ踊りましょう」を「子やぎのうえで」と平気で歌ったりしている。

先行研究、「学生の歌詞理解について（1）」においては、歌唱教材に出てくる生き物や植物の歌詞の理解が、学生の生活の中での気づきや経験と関係していることが検証された。学生がイメージ豊かに歌詞の内容をとらえて表現するためには、歌を覚え、演奏する中で歌詞に関心を寄せるだけでなく、日常、身の回りの環境への関心、気付きがいかに大切かを自覚するような、実体験の指導が養成者側にも必要であることが確認できた。表現としての音楽にとっても、さらに、幼児教育にとっても、歌詞理解の重要性を指導する必要性を痛感した。

平成20年小学校学習指導要領（音楽）では、「表現」における歌唱の指導事項で「歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いを持って歌うこと」（1, 2 学年）「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図を持って歌うこと」（3, 4, 5, 6 各年）と示されている。

本稿では幼稚園や小学校の教員になろうとする学生が、歌唱の音楽表現にあたり、歌詞を意識せず歌うことへの問題を取り上げる。「君が代」を歌う際の歌詞の言葉の曖昧さや、明らかに意味を理解していないことから生ずるブレスの間違い（さざれと石の間でブレスするなど）を多く見かけるにつけ、学生の歌詞の理解度に疑問を持ち、今後の歌唱指導がどうあるべきかを、「君

が代」を通して検討した。

I 研究目的

平成 20 年小学校指導要領（音楽）の中、指導計画の作成と内容の取扱いの項、(3)国歌「君が代」は、いずれの学年においても歌えるよう指導することとあり、指導を明確化している。文部科学省の学習指導要領解説音楽編にも⁽¹⁾「君が代」はいずれの学年においても指導し、入学式や卒業式など必要な時には児童がいつでも歌えるようにしておかなければならない、そのためには、表現学習の目標や内容と関連させ、児童の発達段階に則していずれの学年においても適切な指導を行うような指導計画を作成する必要がある、「国歌の指導に当たっては、国歌「君が代」は日本国憲法下において、日本国の総意に基づき、天皇を日本国及び日本国民統合の象徴とする我が国の末永い繁栄と平和を祈念した歌であることを理解できるようにする必要がある」と説明されている。さらに指導に当たっては「低学年では上級生が歌うのを聴いたり、楽器の演奏や CD などによる演奏を聴いたりしながら親しみをもつようにし、みんなと一緒に歌えるようにすること、中学年では歌詞や楽譜を見て覚えて歌えるようにすること、高学年では国歌の大切さを理解するとともに、歌詞や旋律を正しく歌えるようにすることが大切である」と書かれている。

はたして幼稚園、小学校などの教員を志望している学生の理解度はどのようであろうか。本研究では「君が代」を歌うことについての是非や思想的なことを抜きに、このように小学校で指導され、必修で歌うにあたり、学生が、歌詞を理解せずに歌うことへの危惧から、その理解度の認識と今後の表現としての歌唱指導のあり方を求めることを研究目的とした。

II 方法

1 大学生、短大生の「君が代」の歌詞理解の程度を調べるために 3 大学生対象にアンケート調査を行った（資料 1 参照）。

- (1) 調査日 2014 年 1 月 27 日 対象 T 国立大学・教育学部 2 年生 28 名
- (2) 調査日 2013 年 5 月 6 日 対象 S 私立大学児童学科 3 年生 25 名
- (3) 調査日 2014 年 1 月 17 日 対象 K 私立短期大学 1 年 124 名

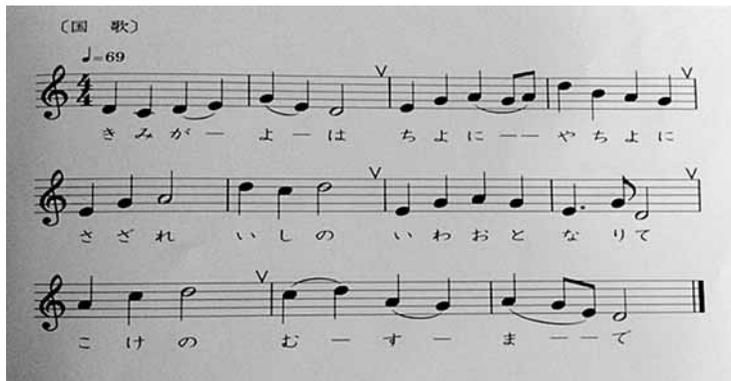
2 小学生に対し「君が代」の歌詞理解のアンケート調査を行った（資料 2 参照）。

- 調査日 2014 年 3 月 対象 埼玉県 A 小学校 4 年生 32 名

Ⅲ 君が代について

「君が代は 千代に八千代に さざれ石の いわおとなりて こけのむすまで」

歌詞の大意を6年生の教科書には「細石が集まりやがて大きな岩となり、その上を苔が一面におおうほどの永きにわたり日本の平和と繁栄が末永く続くことを願う」と書かれている。



明治維新により、近代国家として外交儀礼上、国歌の必要性にせまられ、1870年（明治3年）、平安時代の歌集「古今和歌集巻7賀歌」の部にある読み人しらずの歌を「我が君は」から「君が代は」と変えたものを歌詞とし、イギリス人軍楽教師フェントンが曲をつけた。しかし洋風であったため、日本にふさわしいものとして1880年（明治13年）宮内省式部職雅楽課の伶人、奥好義がつけた旋律を一等伶人の林廣守⁽²⁾が曲に起こし、雅楽の旋律で発表、フェントンの後任のドイツ人フランツ・エッケルトが、吹奏楽で伴奏と和声をつけ編曲し、宮中での「天長節御宴」で公的な初演がなされた。「君が代」は国歌として認定されていたが、1893年（明治26年）文部省が小学校が祝祭日に儀式を行い「祝祭日唱歌」を歌うよう告示、林廣守の名が作曲者として掲載された。以後、学校教育とも「君が代」が切り離せなくなった。

1999年の国旗・国歌法の制定・施行で法律により「君が代」は国歌と定められた。ここでは「君」は天皇を指すとあるが、天皇は日本国及び日本国民統合の象徴であり、そこから転じて「我が国の末永い繁栄と平和を祈念したものと」という解釈がなされている。

現在、君が代を歌う機会は、各種学校の入学や卒業などの式典、国の主催する式典や祭典での国歌斉唱、国を代表するスポーツの国際試合などで、歌われている。

IV 結果と考察

1 短大、大学生へのアンケートから（資料1参照）

(1) 「きみがよ」を歌っているまををまず、ひらがなで歌詞を書き、そのひらがなの歌詞を書けるだけ漢字に直す問いで、漢字の語句は次のように区切って正解とした³⁾。

①君が代 ②千代に八千代に ③さざれ石 ④巖となりて ⑤苔のむすまで
結果は表1参照。

表1 君が代の歌詞を漢字で書く

学生数	①君が代		②千代に八千代に		③さざれ石		④巖となりて		岩・岩音		岩音鳴り		計		⑤苔のむすまで	
	調査校	正解	未記入	正解	未記入	正解	未記入	正解	不正解	不正解	岩合計	未記入	正解	未記入		
T	28	28	0	25	1	22	5	3	7	3	10	15	11	15		
		100%		89%	4%	79%	18%	4%	25%	11%	36%	54%	39%	54%		
S	25	24	0	22	1	20	2	0	11	4	15	8	1	20		
		96%		88%	4%	80%	8%	0%	44%	16%	60%	32%	4%	80%		
K	125	88	29	57	56	63	52	1	24	24	48	67	7	98		
		70%	23%	46%	45%	50%	42%	1%	19%	19%	38%	54%	6%	78%		
計	178	140	29	104	58	105	59	4	42	31	73	90	19	133		
		79%	23%	58%	33%	59%	33%	2%	24%	17%	41%	51%	11%	75%		

①から⑤全部正解は調査人数合計178人中、T大学の3人のみ、2%の学生といった驚きの数字が出た。

- ① 「きみがよ」を「君が代」と書けたのはT大は全員、S大は1人を除いて全員書けたがK短大では70%で、未記入が23%、8名が字の間違いで「君が世」などであった。
- ② 「千代に八千代」には正解がT大89%、S大88%、K短大46%、3校では178人中104名58%であった。未記入（漢字が思いつかない）が、T大、S大とも1人で4%、K短大45%、3校では33%になった。字の間違いでは千夜、千世が多く、ちよぎに、幸よになど、歌詞の間違い覚えが3人いた。
- ③ 「さざれ石」は、さざれがわからず、石という意味としてとらえられなかった学生が多く、思ったより正解が少なかった。正解がT大79%、S大80%、K短大50%、3校計178人中105名59%の正解率であった。未記入が、T大18%、S大8%、K短大42%、3校では33%であった。「石」は意思4人、石野2人、流れ石、千波などの漢字間違いがあった。歌詞自体を「ささえ〜」と覚えている学生もいた。
- ④ 「巖となりて」この語句は大学生でも漢字が難しいが、この歌詞の意味を左右するキーワー

ドである。全体で正しく書けたのは4名2%で極端に低い数値である。「岩，岩音」と書いた学生がT大25%，S大44%，K短大19%，3校では178人中42名24%，「岩音鳴りて」と書いた学生がT大11%，S大16%，K短大19%，「岩，岩音」「岩音鳴りて」を含めた合計はT大36%，S大60%，K短大38%と計3校178名中73名41%が君が代の「巖となりて」を岩音のイメージを持っていたことが分かった。この語句の漢字間違いで、曲全体の意味が大きく変わってくる。次の(2)の質問で45%が今までに君が代の歌詞の意味を習ったことがあったと答えているにもかかわらず、その学びが定着していないことが明白となる結果であった。

- ⑤ 「苔のむすまで」の正解率も「苔」が書けず低かった。T大39%，S大4%，K短大6%と計3校で11%の正解で、無記入が75%であった。結う，蒸す，うす，ぬすまで，むすうまで，など他の語句に比べ、と漢字違いや語句の記憶間違いが14%と多かった。指導の際、歌詞の発音が重要であることが認識される結果である。

(2) 「君が代」の歌詞について今まで考えたことがあるか、学校あるいはどこかで歌詞の内容について習った経験があるか、誰に教えていただいたかを問う結果は表2である。

表2 考えた・習った経験，教えられた人・歌詞理解（意味の理解度）

調査校	学生数	考えた	習った経験あり	教員	親・祖父母	◎	○	△	未記入	意味違い回答	ひらがな歌詞違い
T	28	17	21	17	3	3	18	2	2	3	0
		61%	75%	61%	11%	11%	64%	7%	7%	11%	0%
S	25	15	12	11	2	0	4	1	5	15	1
		60%	48%	44%	8%	0%	16%	4%	20%	60%	4%
K	125	31	45	44	2	0	4	2	80	39	9
		25%	36%	35%	2%	0%	3%	2%	64%	31%	7%
計	178	63	78	72	7	3	26	5	87	57	10
		35%	44%	40%	4%	2%	13%	3%	49%	32%	6%

学生全体では「考えたことがある」が全体では35%であり、歌詞についての関心が高くないことがわかった。しかし学校差があり、T大61%，S大60%と半数以上が考えたことがあったに比べ、K短大生は25%と大変歌詞に対する関心が低く、考えたことがあった学生は4人に1人という結果であった。

習った経験も全体では178人中78名44%と半数以下であり、各学年の音楽の教科書に必ず掲載され、文科省の指導要領でも本来小学校で指導受けるべきことが、実際行われていたのが44%半数以下といった結果であった。今後の問題点である。歌詞に関してはほとんどない意味で、または、ただただ何も考えず、疑問を持たずに丸暗記で歌っている学生が多いことが浮き彫りに

された結果である。歌詞について習ったことがあったかどうかは学校差が大きく、T 国立大学生は 75%，S 私立の大学生が 48%，K 短大生が 36% であり、考えたことがあるかどうかは、歌詞の指導を受けたかどうかとも関連していると考えられる。

歌詞の意味を教えられたのは、178 人中 78 人 44% で、その学習経験者のうち 72 人 40% が教員からであり、あとは親あるいは祖父母といった回答であった。小学校では各学年の発達段階に応じた内容の説明をし、歌えるよう音楽の授業で取り上げられなければならないはずである。

(3) 「君が代」のイメージ、印象、感想の記述では表 3 参照。

表 3 君が代のイメージ・印象・感想

調査校	T	S	K	合 計	%
学生数 (名)	28	25	125	178	100%
国歌・日本のうた	6	2	36	44	25%
式典で歌う	5	3	26	34	19%
暗い	4	6	20	30	17%
天皇中心・崇拜	4	3	9	16	9%
歌詞が分からない・意味不明	3		12	15	8%
スポーツのはじまり (サッカー。相撲)	4	1	8	13	7%
硬い	2	1	10	13	7%
戦争	1	3	6	10	6%
穏やか・ゆったり		2	7	9	5%
悲しい	1		4	5	3%
愛の歌・恋の歌	3	1		4	2%
和・平和			3	3	2%
難しい			3	3	2%
歴史		2		2	1%
音楽が壮大	2			2	1%
終わりが変			2	2	1%
石			2	2	1%
日の丸	1			1	1%
大切な曲			1	1	1%
しんみり			1	1	1%
神聖		1		1	1%
宗教色強い	1			1	1%
自然豊か		1		1	1%
寂しい		1		1	1%
君が代問題	1			1	1%
頑張る			1	1	1%
カッコいい	1			1	1%
歌詞やメロディーが分からず卒業式で歌い戸惑った	1			1	1%
恐ろしい	1			1	1%

国歌・日本の歌という印象が一番多く25%，次いで式典で歌う19%，暗い9%，天皇中心・崇拝9%，歌詞が分からない8%，などであった。

(4) 「君が代」の歌詞の意味を問う質問である（表2, 表4参照）。

表2の◎の項のように歌詞の漢字も含めしっかり意味を捉えていたものは3名2%，およそ全体の意味を捉えていたもの○の項は26名13%，不完全ながら間違っただけの意味ではない記入△が5名3%，合わせても18%の学生しか正しく意味を理解していない結果であった。T大学の学生は60%がおよその意味をとらえていたものの将来教員になろうとする学生がこのようなことであったよいか、音楽の歌詞指導として大きな問題である。

表4 意味の異なる記述

調査校	記述数	記述
T	3	花が岩についている
		君の余波幸代と千代があってきんが重なりあわせて生きる
		日本の昔
S	14	時間や経験を積む
		雨だれがじかんをかけて岩に穴をあける
		あなたとずっと愛し合う
		誰かをずっと待つ
		川流れの歌
		河のミスが岩のあるところで流れつづける
		天皇崇拝
		あなたにずっと思いを寄せる
		天皇崇拝
		戦争に行った人をたたえる
		水の流れにいしがありこけがはえる
		強い男児になりあすにむかう
		天皇崇拝
君のこと		
K	39	自分の意思をしっかり持つ
		ずっと愛する恋文
		水滴が岩に落ちてコケが生える
		君がずっと去った
		君がに成岩となりコケになる
		鳥の音が響く
		友達の死の歌
		日本国民であることに誇りを持つ
君は永遠に意思を貫く		

君はだんだん大人になっていく
君の人生はさざれ石の音がなりつづけコケが結ばれるまで
家族のこと
天皇は永遠だ
君はずっと
天皇は偉い
日本がずっと平和でありますように
戦争に反対
ずっと昔から日本はすごい
天皇が中心
強く生きる
国が平和を強く思う
岩のうた
お祝いしようといった意味
私たちは石野岩音が鳴って苔のむすまで生きる
さざれ石が音を鳴らしながら
大きな岩が、何度も波にぶつかり音とがしている
君は知恵を持ってさざれ石のように鳴り響いて縁を結ぶまで頑張る
君の代は山あり谷あり
天皇は偉い
君と一緒に結ばれるまで歩いていこう
戦争が終わり天皇万歳
滝の近くにある石はコケが生えるほど長い年月たつ
石や岩にこけがはえる
君の応援歌
生きてください
自分を改める

国歌、式典で歌う歌と考えるだけでその意味を知って歌っているのではないため、社会的に問題になっている君が代斉唱をしない教員や起立して歌わない教員への関心も低いはずである。未記入が全体で49%であり、半数はイメージもなく、歌詞の意味に無関心に歌っているわけで、これは表2での63%が君が代について考えたことがない結果と関連があろう。それより問題なのは、表4のように、意味を間違っている記述が31%と多いことであった。

意味の異なる記述31%では、天皇崇拜のほか水の流れや岩音鳴ると思っていることから来る勘違い、君の意味違いからくるイメージの違いが多く見られた。さざれ石の意味がわかれば、「さざれー」で息つきし、「いしの一」とは歌わず、「さざれ石」をワンフレーズで歌うであろう。

大学と短大による差、特に学力のレベルの差で漢字が書けなかったり、意識の差が顕著であった。しかしこれも指導を怠らなければ、また、歌詞理解を音楽表現の中で重要視することを押さ

えておくなら学生の意識は変わるはずである。教員養成側としてはこの結果を重いものとして今後の指導に当たらなければならない。

2 「君が代」についてのアンケート調査（資料2参照）

調査日 2014年3月 対象 埼玉県A小学校4年生 32名

結果は表5である。

表5 小学生（埼玉県A小学校4年生）「君が代」アンケート

1 印象・イメージ・感じたこと（複数回答有）			2 歌詞の意味			3 歌う場所（複数回答有）		
児童数（名）	32	100%	児童数（名）	32	100%	児童数（名）	32	100%
短い	12	38%	わからない	28	88%	卒業式・入学式・式	25	78%
ゆっくり	11	34%	苔が増える・苔のこと	2	6%	サッカー	20	63%
和風・日本らしい	5	16%	君が変わる	1	3%	行事・運動会	5	16%
音が低い	4	13%	細石	1	3%	全校朝会	3	9%
わからない歌	3	9%				野球	2	6%
息が続かない	2	6%						
昔からの歌	2	6%						
変な歌	1	3%						
楽しくない	1	3%						
静か	1	3%						

調査対象の人数が少なく、調査校によっても差があるはずだが、今回大学生との意識の差をみるために調査した子どもたちの88%が意味がわからないと言っている。すでに4年生なので、ただ単に式典で歌う歌といった認識でなく、国歌としての歌詞の意味も知っておくべきであろう。教科書によっては楽譜だけでなく歌詞の意味も記入されている。

大学生は暗い、固い、悲しい、戦争、天皇といったイメージが多く出たのに比べ、小学生は、短い歌38%、ゆっくり34%、日本らしい16%、わからない歌9%、などで、暗さを書いた記述がないことや、音が低い13%、息が続かない6%と言った音楽的な感想が述べられている点が興味深い。

歌う場所については、卒業式、入学式は予想していたが全校朝会といったところでも歌われていた。この調査は小学校によって相当差があることが予想されるが、意味もわからず歌っていることは問題であっても、子どもたちが思想的なイメージや暗さを感じずにとらえていることに一抹の安堵を覚えた。

今回の調査では、予想はしていたものの、幼稚園や小学校教員を目指す学生が、ここまで歌詞を理解せずに歌っていただけでなく、誤った歌詞理解がなされていることには、衝撃を受けた。

歌唱表現では、歌詞をイメージし、心情を理解することで歌の表現が変わってくることから、日頃、歌詞を理解して歌うことの重要性を指導してきたが、今後教員養成としても歌詞理解をさらにしっかり指導していかねばならないことを痛感させられた。君が代についてはさまざまな思想的な論議もなされているが、将来小学校教員を希望する学生を養成する側として、少なくとも間違った解釈の歌詞の理解をしないよう指導していく必要がある。

大学生が小学生に比べ、よりイメージが暗い、硬い、悲しい、と思っていることが気になった。

小学校の高学年では「国歌の大切さを理解する」ことも求められている。特に6年生では、社会科での「わが国の国旗と国歌の意義を理解させ、これを尊重する態度を育てるとともに、諸外国の国旗と国歌も同様に尊重する態度を育てるよう配慮すること」との関連した指導の工夫が必要であると指導書に記されている。いずれにせよあまりに指導が行き渡っていない現実が伺える。

思想的な問題や日教組の君が代反対、起立反対問題などがあり、国歌の指導をさけていることも考えられるが、戦争や天皇崇拜、岩の音が鳴るとイメージしている大学生には、教員養成側として正しく意味を伝え、恒久的な日本の平和を伝える歌であること、日本国歌として今後、誇りをもって歌えるよう指導していきたい。国際化した現代だからこそ、日本人としての誇りを持ち、信頼される日本人として成長するためにも国歌を正しく理解し、尊重するよう指導することが大切であろう。

子どもたちとともに歌う歌唱において、イメージを持って音楽的に歌を表現できるよう、又、将来教員志望の学生が歌詞をしっかり理解して歌うことがいかに大切であるかを今後とも伝えていきたい。

終わりに

アンケート結果については、対象学生が、小学校幼稚園教員、保育士希望の学生であったため、学生といっても偏りが予想された。大学間のレベル差、専攻による違い、地域による違いもあり、その面での調査までは行き届かなかった。しかし教員を志す学生の数値として音楽を表現すると言ったことから歌詞の理解が欠如していること、歌詞に対してあまりに関心を持たずに歌を歌っている点は「君が代」に限らず問題であり、音楽を指導する教員が授業の中で適切な指導していかなければならないと改めて痛感した。今後の教員養成の音楽指導にこの結果を生かしていきたい。

《注》

- (1) 文部科学省（2008）小学校学習指導要領解説 音楽編 教育芸術社 68頁
- (2) 小学校教科書では林広守と記されている。
- (3) 国旗及び国歌に関する法律別記二では巖と苔はひらがなの表記である。

参考文献

- 小島律子（2011）新訂版「小学校音楽科の学習指導 — 生成の原理による授業デザイン —」廣済堂あかつき株式会社
- 初等科音楽教育研究会（2012）初等科音楽教育法〔改定版〕 音楽之友社
- 小学生の音楽1～6（2015） 教育芸術社
- 音楽のおくりもの1～6（2015） 新実徳英著 教育出版株式会社
- 小学校の音楽5 教師用指導書研究編（2011） 教育芸術社
- 小学校の音楽6 教師用指導書研究編（2011） 教育芸術社
- 上笙一郎（2005）日本童謡事典 東京堂出版 120-121頁
- 宮脇長谷子・笠井かほる・井口太（2000）「保育者養成における音楽指導に関する一考察」静岡県立大学短期大学部研究紀要第13-2号 275-288頁
- 文部科学省（2008）小学校学習指導要領解説 音楽編 教育芸術社
- 初等科音楽教育研究会（2008）『改定新版 初等科音楽教育法』音楽之友社 174頁
- 小原光一（2008）「新学習指導要領ガイドブック」教育芸術社
- 笠井かほる（2013）「保育者養成における歌詞理解の試み」第66回日本保育学会発表要旨集 403頁
- 笠井かほる・宮脇龍介（2013）「学生の歌詞理解について(1)」川口短期大学紀要第27号 137-151頁
- 新訂標準音楽辞典（1991）音楽之友社

（提出日 2015年9月30日）

資料Ⅰ 大学生・短大生用 歌詞理解についてのアンケート「君が代」

- 1 「きみがよ」を覚えているまま、ひらがなで歌詞を書いてください。
そのあと、ひらがなの歌詞の下に、書けるだけ漢字に直してください。
- 2 「きみがよ」の歌詞について今まで考えたことがありますか？ ○印を（はい・いいえ）

学校あるいはどこかで歌詞の内容について習った経験がありますか？ ○印を（はい・いいえ）
（はい）に○をつけた人はどこで誰に教えていただいたか書いてください。
- 3 「きみがよ」のうたに持っているイメージ・印象・感想をかいてください。
- 4 「きみがよ」の歌詞の意味を思っているまま書いてください。

資料Ⅱ 小学生用 歌詞理解についてのアンケート「君が代」

- 1 「君が代」の歌の印象、感じたこと、イメージを思ったままできるだけたくさん書いてください
- 2 「君が代」はどんな意味の歌詞とおもいますか？
- 3 「君が代」はどこで歌われますか？